

向学館通信

2007・3・28

楽しい春休み。学力をつけて新学年へ！

学校の進度に追いついていない人、基礎をしっかりとやり直したいという人、まとまった勉強をしたい人には、いまが絶好のチャンス。**やれば必ず結果はついてきます。短い休みですが、計画的に、有効に休みを使ってください。**

単語だけでものを言うのを改めましょう。

多くの生徒たちは、単語だけでしゃべるのが当たり前になっています。こういう習慣は、できるだけ早く改めてほしいと思います。おそらく家でも同様の喋り方をしているのだと思います。たとえば、こういうやり取りになっています。

歴史の問題を学習しているとき「荘園制って、どういうこと？」と聞きます。すると「土地制度」という「こたえ」が返ってきます。たしかに、土地の制度であることは間違いありませんが、これでは全く答えになっていません。土地の所有の仕方や、どういう社会的階層の人が所有しているのか、また、現場でその土地で働いているのは誰か、現場監督をするのはどういう階層の人か、など、その社会を特色付ける「土地制度」をめぐる人々の係わり方や争いの意味が理解できて、歴史は「おもしろいもの」になっていきます。ところが、単に「土地」という単語でしか表現できない人には、土地をめぐるさまざまな事柄は、単語ではとらえきれない「論理」や複雑な「仕組み」を理解する力が育っていないために、説明しても頭に入っていきます。

理科の学習でも、同様です。天気単元のところで「飽和水蒸気量」という言葉が出てきます。これは、温度が上がると空気中に含まれる水蒸気の量がふえるのですが、気温が何℃のときに1m³中に何gの水蒸気まで含むことができるか、ということです。この原理を理解することが、雲や雨ができる根拠の理解に係わっていますのでとても大切な所です。しかし、ここでも説明したあと「飽和水蒸気量って、どういうこと？」と聞きますと、「え、水蒸気？」とか「・・・」とか、いくつかの単語がぼつりぼつりと出てくる、といった状況です。

ここにあげた「荘園」にせよ「飽和水蒸気量」にせよ、単語だけで表現できることではありません。したがって単語だけでものを言うしかできない子には、理解を絶する事になります。とても頭に入りきれないほど「ややこしい」ことに映っていることでしょう。だから、勉強は嫌だ、ということにつながるのでしょう。

「荘園」でも「飽和水蒸気量」でも、何が、どういう条件のときに、どうなって、そのことが他のことにどう関係していくか、という「論理」の筋道としてつかまえることが「理解した」ということになります。ところが、ふだん単語でしかものを言わない子は、論理的な説明がほとんどできない（論理がむずかしくなるほど困難になる）という傾向があります。だから、数学（算数）の文章題、理科、社会などの論理的な理解が必要な部分はみな苦手になっていきます。

ふだんから、論理的なことをしっかりと話せるように習慣づけることがいかに大事かと、改めて指摘しておきたいと思いました。

企業が新卒者採用で重視すること

今年も「朝日新聞」が主要100社の新卒者採用計画を調べた結果を報じています。それによると、多い項目から見ると、「コミュニケーション能力」80社・「行動力」54社・「熱意」36社・「人柄」33社・「協調性」25社、といった順位になっています（13の選択肢から3つ選ぶ方法で、100社が選んだ順位）。

日本を代表する大企業100社のうち8割が「コミュニケーション能力」と答えていることは、裏をかえせば、いまいかにこのコミュニケーション能力が低下しているかということの表れでもあります。この能力が足りないために、会社での仕事が様々な面で障害になっていることが、こうした要求の出る根拠だと思います。たとえ、勉強ができて、話ができないと就職にはきわめて不利だということを知りしめてほしいと思います。

また、「行動力」や「熱意」なども人を評価する上で、高い価値が与えられていることにも注目しておきたいです。何事にも消極的な感じの人や、不活発な印象を与える人は、不利になることは間違いのないようです。「元気に、あかるく、話じょうず」を目指しましょう！